

北南米知財の エキスパート集団

国際第1委員会 委員長

英保 和男氏

(所属：住友ファーマ株式会社)



interview

自己紹介

研究から知財に移って約10年。法律の面白さにはまり、特許法をより深く理解するために、六法+αも学びました。JIPA活動は国際第1委員会一筋、トータル5年目、委員長としては2年目です。趣味は音楽♪聴くのも歌うのも大好きで、ピアノとギターを少々奏でます。最近Mrs. GREEN APPLEとVaundyにはまっています。

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

今年度研究テーマ

WG1：米国におけるパラメータ特許の調査研究

WG2：米国における明確性に関する調査研究

WG3：米国における特許侵害訴訟と特許法101条との関係性に関する調査研究

国際第1委員会の今年度の研究テーマは、昨年度の委員から広く募集しました。その上で、テーマを提案した方にリーダーを引き受けてもらったWGもあります。他の委員の協力を得て、自らの興味関心あるテーマを研究できるのはJIPA活動の1つの醍醐味と思います。もちろん、多くの方に興味を持ってもらえるテーマでないと応募してもらえず、テーマとして採択されないので、センスも重要ですね。

特に米国は多くの企業にとって最も重要な市場であり、重要な判例や法改正があれば、即時に多くの情報が発信されます。つまり、JIPAが発信しなくても情報は得られるわけです。従って、当委員会の活動においては、企業の視点を最も大事にし、どのような情報を提供すれば企業の役に立つかを考えて日々の活動を行っています。

Q 委員会の特長／魅力は？

国際第1委員会の特長は、「優秀×真面目×多様性」です。また、国際第1委員会に参加することの魅力として、自らの実力向上、日米の知財専門家との人脈形成が大きいと思います。

WG活動では、かなりの数の判例を読み込みます。皆さんしっかりと読み込み、正確な判例の理解の下、WGでの議論が行われています。そこでは、多様な意見が出てきます。WGに参加し、判例を読み、皆さんで議論をすることにより、個人の実力が大きく向上するはずですが、また、各企業の優秀な人材と人脈を形成できることも大きな特長です。そう言われると、自分はまだまだと参加をためらう方がいるかもしれませんが、WGLや副委員長、その他の委員のサポートにより、対応できるようになるので安心してください！ぜひ、複数年の参加を検討いただければと思います。

米国やブラジル等の専門家との意見交換会も開催されます。また、USPTOとの意見交換会 (IP-PAC) への参加も行っています。今年度は当委員会から2名が渡米し、意見発信を行いました。人脈形成を含め、このような機会はJIPAだからこそ得られるものです。責任も大きいですが、非常にやりがいのある活動です。

Q 委員会としてのこだわりは？

国際第1委員会のこだわりは「楽しく」参加することです。そして、楽しく参加するために、①事前にしっかり準備すること、②積極的に発言すること、③役を買って出ること、を重視しています。①～③を行う事は簡単ではありません。ただ、積極的に協力し、議論し、リーダーシップを発揮することで、JIPA活動からより多くのもの(経験、実力、人脈)が得られます。やる気のある方には、積極的に役職を割り当てています。2年目から副委員長を担当される方もおり、活動の幅も大きく広がります。

その上で交流の促進を図っています。この観点でも、上記の①～③の視点は重要です。1つの目的(例えば論説投稿)に向かって活動する中でこそ、本当の意味での交流・人脈形成につながると信じています。また、最近は年齢の幅も広がっており、その中で、全員が遠慮なく意見交換できる環境を意識しています。委員会における意見交換では、皆さんが臆することなく意見を述べていると考えています。交流の促進として、委員の会社紹介や訪問、WGの垣根を超えた意見交換会の機会の提供、他委員会との連携などを意識し、模索しています。